

## 令和5年度 認知症施策の取組と実績について

令和6年1月末実績

### 1 普及啓発

事業	令和5年度の取組みと実績
<b>認知症サポーターの養成</b> 認知症に関する正しい知識や接し方等を学び、認知症の方とその家族を見守る応援者となる認知症サポーターを養成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民向けの他、行政職員、介護事業所職員、小中学生、高校生等に対する養成講座を開催</li> <li>・認知症サポーター養成講座の開催状況については「別紙」参照</li> </ul>
<b>世界アルツハイマーデー（9/21）及びアルツハイマー月間（9月）啓発</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/20～22の3日間、ふるさと広場の風車をオレンジ色にライトアップ（9/21付千葉日報1面に写真と記事掲載）</li> <li>・JR佐倉駅構内、市役所社会福祉センター、志津図書館、南図書館、夢咲くら館、千代田・染井野ふれあいセンター、ふるさと広場の売店において、認知症の情報コーナーを設置し、「希望の木」のほか啓発ポスターやリーフレットを展示・配架</li> </ul> <p>※アルツハイマー月間にあわせ、認知症の人の『本人発信支援』の一環として、各地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員が主体となり、「希望の木」のポスターを圏域ごとに作成。大きな木の枝を描いたポスターに、認知症の本人、家族、地域住民などが、各自の希望、やってみたいことなどを自由に書いた葉っぱを貼り、完成させた。</p>

### 2 予防

事業	令和5年度の取組みと実績
<b>脳とからだの元気力測定会</b> 早期から認知症の症状や発症リスクについての知識を学び、自身の認知機能を把握することで、生活習慣の改善、社会参加、適切な医療受診などへの主体的な取組みを促進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインデジタルツール「のう KNOW」を使用し、対象者がタブレット端末（パソコン、スマホでも可）を操作することにより、脳の健康度を測定。</li> <li>反応速度や正答率から、脳の健康度（脳年齢、集中力スコア、記憶力スコア）を測定する。スマホやタブレットを用いて自宅での測定も可能。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施者 延 201 人 （会場 152 人、自宅等 49 人） 性別 男性 65 人 女性 136 人 平均年齢 73.5 歳</li> <li>・結果 平均脳年齢 74.8 歳 集中カスコア A108 人 B53 人 C40 人 記憶カスコア A146 人 B30 人 C3 人 不明 2 人（計測不能）</li> <li>・支援 結果に応じ、物忘れ相談、介護予防教室、再測定などを勧奨している。</li> </ul>
--	--

### 3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

事業	令和5年度の取り組みと実績
<p><b>物忘れ相談</b></p> <p>物忘れや認知症についての不安があるかた及びその家族を対象に、専門医等による物忘れ相談を実施します。受診の必要性を判断し、軽度認知障害（MCI）の早期発見により、認知症予防の支援につなげます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数：8回（4・8月を除く毎月1回）</li> <li>・相談者数：30件（3.75件 / 1回）</li> <li>・結果 受診勧奨：18件 経過観察：12件</li> </ul>
<p><b>認知症初期集中支援チームの活動</b></p> <p>認知症が疑われる人や認知症の人で、医療受診や介護サービスを受けていない人を対象に、各地域包括支援センター内の「認知症初期集中支援チーム」と認知症サポート医による初動対応を包括的・集中的に行い、家族負担の軽減と在宅生活継続への支援を行います。</p>	<p>（令和5年12月末時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期集中支援新規対象者 17 人</li> <li>・訪問・チーム員会議の件数と処遇については（別紙2）参照</li> </ul>
<p><b>認知症ケア多職種協働研修</b></p> <p>多職種で認知症の方と家族を支えるためのネットワークづくりを推進するための研修を開催し、認知症ケアの向上を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症の人の『本人発信』を支える ～家族の立場から～」 令和6年1月30日（火）13：30～15：30 講師：認知症の人と家族の会 千葉県支部 副代表 廣岡 成子 様 会場：ミレニアムセンター佐倉 参加人数：20人 参加者内訳：ケアマネジャー・主任ケアマネジャー10人、</li> </ul>

	介護福祉士4人、社会福祉士4人、看護師2人
<b>認知症カフェ（オレンジカフェ）</b> 認知症の方と家族、地域住民、専門職が集う「認知症カフェ」を開設し、認知症の人を支えるつながりと、認知症の方の家族の介護負担の軽減を図ります。	（令和5年12月末時点） ・市内6か所に開設（地域包括支援センター委託5か所、介護事業所1か所） ・地域包括支援センター実施分の実績 開催回数：44回 参加延人数：714人 （内訳 当事者214人、家族169人、一般95人、ボランティア236人） カフェ参加者への相談支援：42件
<b>家族介護支援事業</b> <b>（介護者教室・介護者のつどい）</b> 介護方法の紹介・指導及び要介護者を現に介護する者等への支援を行い、介護者の負担の軽減を図ります。	（令和5年12月末時点） ・介護者教室 開催回数：20回 参加延人数：285人 ・介護者のつどい 開催回数：31回 参加延人数：216人

#### 4 認知症バリアフリーの推進

事業	令和5年度の取り組みと実績
<b>認知症高齢者声かけ訓練の実施</b> 認知症の高齢者等が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の見守り支援体制を整えるため、地域の公園や集会所等において、道に迷っている認知症高齢者への声かけや各所への連絡、連携の実地訓練を開催します。	・開催回数：3回 西志津地区社会福祉協議会 参加人数 16人 千代田地区社会福祉協議会 参加人数 27人 井野小学校区まちづくり協議会 参加人数 19人
<b>チームオレンジの活動支援</b> ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組み（チームオレンジ）を構築します。	・チームオレンジの登録者数 51人 ・チームオレンジ設置数 1か所 チームオレンジの活動については「別紙」参照
<b>高齢者の虐待防止</b> 地域のネットワークを活用して高齢者虐待の早期発見に努め、高齢者及び養護者に	（令和5年12月末時点） ・地域における見守り意識の高揚を図り、関係機関と連携した様々な支援・対応を実施

<p>対して、適切な支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者虐待通報件数 71 件</li> <li>・ 高齢者虐待認定件数 9 件</li> </ul>
<p><b>2市1町SOSネットワーク</b>  佐倉市・八街市・酒々井町・警察署・消防組合・防犯組合連合会による連絡協議会を組織し、認知症高齢者等が行方不明になった場合に、FAX や防災無線等を利用して捜索への協力を呼びかけます。また、GPS を利用した位置情報検索システムの端末購入費用の助成や、行方不明となるおそれのある高齢者等に対し、身元確認のできる「SOS ステッカー」の交付を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捜索回数 29 回  (うち佐倉市民 19 件)</li> <li>・ GPS 端末初期費用助成 5 件</li> <li>・ SOS ステッカー交付 (市内) 42 人  (交付延べ人数 355 人)</li> </ul>
<p><b>成年後見制度利用支援</b>  成年後見制度に関する相談対応、普及啓発活動を行います。  成年後見制度を利用するための費用の一部を助成します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐倉市成年後見制度利用促進基本計画に基づき、中核機関(佐倉市成年後見支援センター)が主軸となり、制度利用に係る相談支援、普及啓発活動、後見人の支援等を実施</li> <li>・ 成年後見支援センター相談総件数 405 件</li> <li>・ 成年後見等開始審判請求費用助成件数 0 件</li> <li>・ 成年後見人等報酬費用助成件数高齢者 19 件</li> </ul>
<p><b>成年後見審判請求事務</b>  成年後見制度の利用が必要にも関わらず、親族による申立が期待できない高齢者について、市長による成年後見等開始審判請求を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成年後見等開始審判請求数  高齢者 6 件 (市長申立数)</li> </ul>